



芭蕉が連句を楽したと伝えられる須賀川の可伸庵跡  
(福島県須賀川市) 芭蕉庵ドットコム提供

新編日本古典文学全集第71巻・松尾芭蕉  
集2『紀行・日記・俳文・連句編』(小学館刊)  
から転載。校注者・井本農一、久富哲雄

## 奥の細道

松尾芭蕉

## 古典の日

七

### 須賀川



とかくして越行まゝに、あふくま川を渡る。左りに会津根高、右に岩城・相馬・三春の庄、常陸、下野の地をさかひて山つらなる。かけ沼と三所を行に、けふは空雲りて物影うつらず。

須賀川の駅に等窮といふものをたづねて、四五日とせめらる。先「白河の関いかにこえつるにや」と問。「長途のくるしみ、身心つかれ、且は風景に魂うば、れ、懐旧に腸を断て、はかしくしうおもひめぐらさず。

### 風流の初やおくの田植うた

無下にこえむもさすがに」と語れば、脇・第三とつゞけて三巻となしぬ。この宿の傍に、大木成栗の木陰をたのみて、世をいとふ僧有。椽ひろふ太山もかくやと、間に覚られて、ものに書付侍ル。其詞、

### 世の人の見付ぬ花や軒の栗

栗といふ文字は西の木と書て、西方浄土に便ありと、行基菩薩の一生杖にも柱にも此木を用給ふとかや。

### 奥ゆかしいみちのくへ

芳賀徹さんとたずねる  
**おくのほそ道**

関東から陸奥への境、白河の関を越えんと、さすがに芭蕉の心は昂揚した。「旅心定めぬ」と紀行には言う。いよいよ憧れの、そして未知の、古代の詩と史の生きた異境に踏み入ったの思いに、身のおののくのを覚えたのだらう。能因法師の「都をば霞ととも立ちしかど」以来の歌枕白河の古歌をいくつも反芻しながら、旅をつづけた。四月二十二日、須賀川村にたどりつき、旧友相楽等窮の家在世話になることになったが、さっそく白河での作句を問われると、「懐旧に腸を断て」思うよつには作れなかったと答える以外になかった。

そうは言っても詩人として挨拶もなしというわけにはいかず、と辛うじて示したのが

風流の初やおくの田植うた

の一句。さすがに味わいの深い句ではないか。白河を越えるあたりからよく耳にした早乙女たちの田植歌。いかにも陸奥らしいあの鄙びた言葉や唄いぶりこそが、この稲作の国の詩歌の源流にあるものに違いない。私が奥の細道に求める古い風雅の最初のうれしい経験でもあった、という。芭蕉の古代文化への憧れと秘められた志とをほのかに洩らした一句とも言えよう。

宿の主等窮はこの句をよるこび、すぐにこれを発句に「覆盆子を折て我まっけ草」と歓迎の脇をつけ、曾良がまたこれに依りて、興のおもむくままに三人で歌仙一卷をなした。芭蕉はすでに黒羽の翠桃室でも連句を試みていたし、須賀川では等窮とその仲間が俳僧可伸栗庵の庵に集まって、芭蕉を囲んで歌仙を巻くこともした。芭蕉の行脚の先々にはすでにこのような俳諧のネットワークが点在して、彼の来遊を歓迎してくれていたのである。

右の俳僧栗庵は村の一隅の大きな栗の木の下に庵を結んで暮らしていた。「世の人の見付ぬ花や」は、その西行風の脱俗ぶりに共感し、これを讀めた一句。行基菩薩の栗の木の枝ほどの枯淡さと、折からの栗の花の香に包まれた爽やかな閑適ぶりとが偲ばれて、まことに好ましく忘れ難い。



### 能舞台を見ると思い出す

30代にして未亡人となつてしまつた祖母は、週に一度の仕舞のお稽古を楽しみにしていた。先生

### 古典と私

の朗々とした声に合わせ、てゆつくりと足を運ぶ祖母。幼かった私は、祖母が拍子踏むのを見て、なんとなくその様がおも



華道家元池坊次期家元 池坊由紀さん

しづく感じられたのだらう。祖母が小気味よくトントン

とならすと、うしろについて真似していた私もその響きを聞きやいなや小さな足でトントンとなつた



優雅な風景が楽しめる大沢池(京都市右京区)

### 文学ウォーク

嵯峨は小倉百人一首誕生の地と言われています。小倉山の山麓に選者藤原定家の山荘があり、そこで選定、編纂されたと伝えられるからです。現在、「厭離庵」「二尊院」「常寂光寺」の三カ所がその山荘跡と目されていて、それぞれがゆかりがあるようですが、いずれなのか、定かではありません。平安の頃、清少納言が『枕草子』で、「野は、嵯峨野、さらなり」と一番にあげたこの地では、多くの王朝貴族や歌人たちが観月や詠歌を楽しみました。その嵯峨に通う道筋のひとつが「千代の古道」で、旧嵯峨離宮(現在の大覚寺)へと続いています。JR太秦駅から約7分、新丸太町通から山越街道に入り、広沢池

畔に至ります。この道には後鳥羽院、在原行平ほか、歌人たちの碑が続きます。見神社の前を通ると、のどかな昔ながらの風景が広がります。一帯は「歴史的風土特別保存地区」にも指定されている所で、心が癒されます。そして大覚寺へ。大沢池畔には藤原公任の歌「滝の音はたえて久しくなりぬれど名こそ流れてなほ聞こえけれ」で知られる「名古曾の滝跡」、紀友則の碑や菅原道真をまつる天神社などがあります。百人一首ゆかりの清涼寺へと足を延ばすと、そこから「厭離庵」などはすぐです。(NPO法人・都草 河田久章)

### 小倉百人一首誕生ゆかりの地巡る

## 親しむ

DNP

## 伝匠美

文化財を多くの人に、そして子孫のために。  
伝匠美は、DNPが「文化財の保存と次世代への継承」を目的に開発した技術です。  
DNPの最先端技術によって、障壁画・屏風・掛軸の紙本墨画・金地着色・杉戸絵・天井画・絵馬の板絵着色など、すべての日本画を耐久性に優れた高精細な再現が可能になりました。  
伝匠美のもう一つの大きな意義は、文化財を原寸大に再現できる精緻なデジタルデータを子孫に伝承できることです。



大乗寺は応挙寺と呼ばれ、円山応挙とその門弟12名の筆になる障壁画165面があり、すべて国の重要文化財に指定されています。

大乗寺 円山応挙デジタル障壁画 今年4月、第1期完成。写生の祖 応挙が意図した荘厳な絵画空間が体験できます。  
兵庫県三方郡香美町香住区森860 TEL 0796-36-0602 http://www.daijyoji.or.jp/